

はじめに

10代のころ、私はいつも「人はなぜ生きているんだろう」と考えているような人間でした。

はじめは子孫繁栄が目的かと思ったのですが、子孫を繁栄させて人口を増やしてどうするんだろう？ と疑問が出てきました。人口を増やして社会を発展させるため？ 社会を発展させた先に何かあるのか？ 私が存在する意味とは？ というようなことをずっと考えていました。そして、ずっと突き詰めていった先は「すべてのことは意味がない」ということでした。

すべての生き物たちはただ生きて、ただ死んでいく。物もいずれ朽ち果てる。何もかも意味がない。すべては意味がない。すべてのものはあるようでいて、なにに等しいのだと思いました。

その瞬間「なーんだ、すべて意味がないなら楽しく自由に生きたほうがいいじゃ

ん」と思いました。

楽しく生きようが苦しく生きようが、結局は意味がないのです。それならわざわざ苦しむ必要はないと思いました。

意味がないのに、時間に縛られたりお金のために働いたりしているのは一体なんだらう？ 何かおかしい。もっと楽しくもっと自由に、寝たいときに寝て、食べたいときに食べて、あとは自由に楽しんでいけばいいはずだ。人間以外の動物はみんな寝たいときに寝て、食べたいときに食べ、あとは自由にしている。

この世の仕組みに人間だけが逆らって生きているように思えました。

しかし、この世のシステムというののもう子どもものころからつくられており、朝決まった時間に起き、みんなと同じ学校で同じことを教わり、同じような毎日を過ごします。

それが当たり前でずーっと過ごしていくのです。社会に出てもそのサイクルは変わりません。

10代のころに疑問を持っていた私も、いつしかその波に流されていきました。そして20代は、そういうことを考える余裕もないぐらい忙しい日々がやってきたのです。

けれども、私の根底には常に「すべて意味はない」、その思いがありました。そして、それを確信する出来事が起きました。

がんで亡くなった友人が残してくれた言葉。彼女は日本中を駆け回るアーティストでした。彼女はアーティストらしく、亡くなる直前まで自分の心情を綴ってくれていました。その最後に残した言葉。その言葉を見て、やはりそうかと込み上げてくる思いでいっぱいになったのです。それは私にとって答え合わせかと思うような言葉でした。

頭では、本来は自由に生きるのが当たり前と思いつつも、この世の中のシステムに押し流されるように、私は29歳まで自分を押し殺しながら生きてきました。自分を押し殺していると、どんどんと苦しいことが起きていきました。

私がどうやってそこから抜け出したのか、そして抜け出した結果、何が起きたのかをこの本に綴っていかうと思います。

この世の仕組みに気がつけば、すべてはシンプルです。